

News letter

—ザ・ねんけい—

横浜市立大学
附属2病院看護部と看護学科
との連携会議

2012.3
2号

2号が出来ました！

横浜市立大学附属2病院看護部と横浜市立大学医学部看護学科の連携会議は、1)教育、2)研究、3)医療、4)キャリア支援に関する連携協力を推進するため設置した共同体です。このような大学病院と大学における看護の総合的な連携組織は、全国的にみてもユニークなものであると自負しております。

2011年度の主な活動は、(1)臨地実習指導者研修、(2)共同研究・連携、(3)キャリア支援、(4)広報に集約されます。ここにその成果の一端をお届けいたします。さらなる発展のため忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

連携会議委員長：田高悦子（横浜市立大学医学部看護学科地域看護学）

平成23年 横浜市立大学附属2病院看護部と看護学科との連携会議 委員紹介

<附属病院> 森山 比路美、渡邊 三紀子、佐々木 佳代、島田 朋子、原 清春 職員課長
<センター病院> 野水 桂子、濱崎 登代子、田中 淳子、徳永 なおみ、加藤 淳一 総務課長
<看護学科> 田高 悦子、坂梨 薫、野村 明美、五木田 和枝、石田 英昭 学務・教務課長
<横浜市大> 杉浦 由美子

WGのご紹介

- (1) 臨地実習指導者研修（田中、野村、渡邊、佐々木）
臨床実習に関する学習をすすめ、実習環境について検討する
- (2) 共同研究・連携（野水、五木田、島田）
共同研究等の事業にかかる検討、集約を行い、連携を促進する
- (3) キャリア支援（濱崎、野村、森山）
キャリア支援や学生の就職支援にかかる企画、実施、評価、統括
- (4) 広報（島田、五木田、杉浦、徳永）
ニュースレターその他広報の企画、編集、発行、評価、総括

【目次】

連携会議委員長挨拶・委員紹介	P1
看護学科1年生インターンシップの開催報告	P2
合同臨地実習指導者研修会の開催報告	P4
卒業生は今	P5・P9
2011.3.11看護学科・2病院の連携報告	P6
附属2病院から看護学専攻への講師派遣について	P9
看護学科から附属2病院への講師派遣について	P10
共同研究・研究指導	P11
附属2病院連携・編集後記	P12



看護学科 1年生インターンシップが 平成23年9月20日に 行われました！

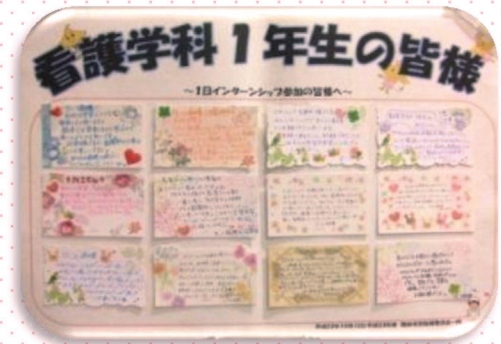
昨年度まで、看護学の紹介として領域別にオムニバスで行っていた「看護の統合と実践Ⅰ」を今年度から、病院における看護職の業務を見学し、看護に関する知識を深めることができるという目的を、一方では、後期から開講される看護演習に向けての動機づけになればというねらいもありインターンシップを計画しました。

1年生94人全員が一斉に行う計画でしたので、両附属病院の看護部の皆様の多大なるご協力の基、病棟・外来・手術室・内視鏡室など多岐に渡る見学を、一人の欠席者もなく無事行うことができました。緊張のあまり倒れてしまう学生もあり、ご迷惑をおかけしましたが・・・

翌日は台風の影響で指導いただいた看護部の方とのディスカッションはできませんでしたが、指導者の方から学びに対するコメント(可愛いカード)を頂いたことは学生の励みとなりました。

- 学生のレポートおよびグループワークの中での学びとして、看護に必要なことは
- 1) 安全の確保 2) 声掛け・コミュニケーション
 - 3) 人権の尊重 4) チームワーク
 - 5) 情報の共有などであり、看護の対象は家族も含んでいる。

また、1) 看護はやりがいのある仕事である、2) これから知識・技術をしっかり学んでいきたい 3) 改めて看護師になりたいと思った 4) 患者さんの生活と心に寄り添う看護師になりたい等の内容があふれていました。



現場からのメッセージ

	小児科	NICU	神経内科
感染	床に落ちた物は消毒してからその子に返す ・食事の手洗いうが ・食後の歯磨きの徹底	赤ちゃんに触れる時は手袋 ・母乳を与える時はがウン・マスク・手袋	感染となるゴミは細かく分別 ・患者ごとに、手指消毒・マスク 手袋・ビニールエプロンの交換
声かけ	平等に話を聴き、傾聴 にあいさつしたり、話を聞いてあげて	満期の赤ちゃんには声かけ ・お母さんが前向きに話せるようケア	寝たりの人や会話が困難な人にも声かけを絶やさず、意志確認を怠らぬ
環境	動物の飼育や不安を減らす 年齢や危険に耐えられない年齢の子に合わせたおもちゃを準備してあげた 日常生活に慣れさせるため、病院内に学校の様子を再現していた	ストレスがつかないよう話を聴く 保温器の中はお母さんのお腹の中と同じ ・満期の赤ちゃんには昼夜の区別を明確にする	通常のスクリーンは、声や思いが伝わりづらいものもある ・処置ごとにカンテンを調整し、患者のケアバシを守る

グループワークの成果

今年も、1年生の「ヒヨコさん」がインターンシップを体験します。両附属病院の看護部の皆様、温かい見守りとご指導よろしくお願いたします。台風が来ないことを祈りつつ・・・。



横浜市立大学医学部看護学科統合カリキュラム長 坂梨薫

参加された学生さんに
聞いてみました！



看護学科1年
梅本 千種

Q はじめての臨床、
インターンシップはどうでしたか？

インターンシップでは実際に学生1人につき1人の看護師さんにつかせて頂き、実際の看護の現場、病棟の雰囲気などを見学することができました。授業で学んだことを実際に行われているのを感じることができました。このインターンシップに行き、看護師同士での患者さんの情報共有のためのコミュニケーションがとても多かったことも印象的でした。

また、疑問に思ったことを直接臨床現場にいらっしゃる看護師さんに聞くことができたのもとても勉強になりました。このインターンシップの機会が1年次の9月に設けられていて、今後の看護に携わっていく上でモチベーションがさらに上がり、本当に良かったです。

お世話になった看護師のみなさんを始めとする病院の方々には感謝したいです。

臨床指導者に聞いてみました！

昨年度のインターンシップでは、初めての病棟の雰囲気に学生さんは緊張している様子でした。そんな中でも積極的に質問したりメモをとる姿が印象に残っています。この体験を基盤に、さらに学習を深め演習や実習を通して看護師に一步步近づいていってくれることを期待しています。

学生の皆さんの豊かな感性や患者さんに対する誠実さは、病棟スタッフ初め私も驚かされ関心することも多いです。私も臨床実習担当として、みなさんの実習の学びがより深いものとなるために、さらに良い実習環境を整えられるよう努力したいと思います。成長した皆さんにまた会えること、そしてまた実習に来て一緒に学べることを楽しみにお待ちしております。

実習期間中病院のどこかで会ったら、気軽に声をかけてくださいね！



附属病院 9-3病棟

山内 加奈

昨年より、1年生のインターンシップを受け入れることとなりました。病棟という環境が初めてという学生さんが多く、すごく緊張していたようですが、慣れない環境にも関わらずとてもいい学びが出来ていたように思います。その学びを是非、今後活かしていってほしいなと思います。

私は看護をしていく上で一番大切にしている事は「私がこの患者さんや、家族の立場だったらどんな看護をしてもらいたいかな、逆にこんなことされたら嫌かな」など相手の立場に立って考えることです。知識・技術の習得はもちろん必須ですがこれが基盤にあってこそ患者さんから頼られる看護師に近づけるのではないかと考えています。皆さんはどんな看護師になりたいですか？私は皆さんが実習に来るのを毎回楽しみにしています。これから勉強することがたくさん出てくると思いますが、素敵な看護師になれるよう皆さんと一緒にわたしも頑張っていきたいと思っています。



センター病院 11-2病棟

吉田 玲

合同臨地実習指導者研修会が開催されました！

今年度も昨年同様、
「附属2病院と看護学科合同臨地実習指導研修会」を
開催しました

1回目9／16は、指導者と教員、2回目10／17は、臨床経験10年目以上の看護師と教員が、臨地実習での学習について、共に語り、共に考える研修でした。指導者たちは、日ごろから教員と関わる機会が多いものの、改めて討議することで情報共有や連携について確認し合う場となりました。

一方、臨床経験10年以上の看護師たちは、学生指導はしていても、教員と直接話し合う機会が少ないため、今回の研修は、とても貴重な体験となりました。中でも、自分たちの学生時代を想起することで、時代は変わっても、学生時代の夢や希望は不変であること、学生一人一人の体験が、その先何年にも亘って財産となり得ることに気づき、先輩看護師として学生と向き合う姿勢、態度について考えることができました。実習場面だけでなく、研修という形で看護師と教員が討議することで、学生たちの学習環境が更に整備されていくことを期待しています。

センター病院 教育担当師長 田中淳子





共にNICUで働く プリセプターとプリセプティーを紹介します



看護学科 1期生
渡部 友紀

3年目で初めてプリセプターをすることになり、正直、日々の業務で精一杯なのにできるはずがないと思っていました。実際に今年度は委員会活動が始まったり、重症度の高い患者様を担当させていただくようになったりと自分自身の課題も多い年でした。

入職当初から前田さんは自分の考えを持っていて、振り返りをすると気づかされることが多く、一生懸命な姿を見て、自分が1年目に辛かった時期の話をすることもありました。困ったときには相談にのってくださる先輩方がたくさんいたので心強かったです。出身校が同じだったこともあり、実習で来られる先生方からも話を聞くことができました。このように、環境が整っていたおかげで1年間なんとかプリセプターをすることができ、私自身の看護観を振り返るきっかけにもなりました。

現在では、前田さんも優先順位や安全な方法を考えて仕事ができるようになってきたと思います。NICUは赤ちゃんたちと言葉でコミュニケーションをとることができないので、これからも優しい気持ちを忘れずによく見てよく感じて、より良い看護ができるように一緒に頑張っていきたいです。



看護学科 3期生
前田 由夏

4月に入職し、その1ヶ月程は中央研修にて大学で学んだ看護の知識・技術をおさらいし、臨床で生かせるよう学んできました。そして4月末から本格的にNICUでの業務が開始し、最初はNICUに入院している児の特徴や実際に行われている看護についての講義や実技を先輩から教わりました。その後それをもとに先輩に一つひとつの手技を見てもらいながらすすめていきました。

独り立ちをした現在でも何か判断に困ったことや疑問などがあれば、どの先輩に相談しても丁寧に指導してもらっています。入職当初は知識やケア・技術も未熟なうえに段取りも上手いかず、一日の業務をこなすことで精一杯の毎日でしたが、この部署で働き始めてから9ヶ月、少しずつですが分かること・出来ることが増えてきて、ただ“業務をこなす”だけではなく、赤ちゃんを看護することにやりがいを感じつつあります。

また先輩のマンツーマンの指導からコーディンフォロー、そして独り立ちと段階を経ていく中で、一年生である自分もチームの一員として先輩スタッフと協力しながら、責任感をもって働くという意識もより強くなっています。

2011. 3. 11 大学と附属病院で連携があったことを 知っていますか？

忘れもしない3月11日の震災。

看護研究棟

横浜でも震度5、病院は、最初ぐらぐらしていたのが、
だんだん強くなり、あわてて病棟巡視に行きました。
エレベーターは停止し、階段で上りました。
手すりにつかまっても、体が揺れて、なかなか上がれなかった
のを覚えています。



そんな中、病院中の医師、看護師、コメディカル、事務職が手分け
して院内調整しました。外来には、まだ診察中の患者さまとご家族、
病棟にも面会者が多くおりました。シーサイドも止まり、京急、JRも
止まり、タクシーは長蛇の列。外来患者、面会者をどうするか、検討
するなか、看護学科から【実習室にはベッドがあります。】との助け。
そして病院まで看護学科生が迎えに来てくれて、看護研究棟まで
移動できました。



お世話になった
演習室

夕食時間になっていました。食事の用意もどうするか、
問題になった時、看護学科の学食で学生がお弁当を
準備してくださり、看護学科で仮眠をした患者さま、
ご家族は、食事をし、ベッドで布団をかぶって仮眠する
ことができました。また治験の一層試験用の病室も提供
してもらい、そこでも仮眠ができました。

院内の患者さまには、病院食。ご家族、職員へは、
栄養部で炊き出しのおこわ、暖かく息つける瞬間でした！

一晩中余震が続き、病院の渡り廊下はギシギシなり続くなか、看護学科
学生さんの応援がどんなにか頼りになったことか。横浜市立大学は、いざ
というとき、頼りになる力強い大学、病院だぞ！ と実感できました。

震災の傷跡は大きく、多くの大切な命をなくし、まだまだ仮設住宅に住まう
方、放射能から逃れ、やむなく他地方に避難されている方がいらっしゃいます。
本学の学生、職員のご家族にも被災されている方がいらっしゃいます。
それでもみな力を出し合って勤務されていること頭が下がります。
市大って、市大病院って団結力が強いし良い職場だなあ、とつくづく感じた年
でした。末筆になりましたが亡くなられた方々のご冥福と、一日でも早い復興
をお祈りいたします。

横浜市立大学企画総務部人事課 杉浦 由美子
(当時 横浜市立大学附属病院看護部 総務人事担当副部长)

震災後のこころのケアチームの活動に参加して

平成23年5月16日から3泊4日のスケジュールで第1班～第7班の「心のケアチーム」が福島県相馬市に派遣されました。私は第4班の看護師として、市大附属2病院精神科医2名、センター精神保健福祉士1名、看護学科看護師1名、八景事務1名と共に6名で活動してきました。主に高校教師の心の健康診断、避難所巡回を行いました。

歴史的背景等から相馬市には精神科医療がなくスティグマが存在し、高校の先生方の支援の仕方にも配慮すべき点があり、地域で心のケアを継続していく上での問題を考えさせられました。特に福島県は地震、津波による被害に加え、原発事故による放射線被害等、被災状況は複雑であり、長期にわたる慢性的なストレスによる心身への影響は大きく、精神科医療の必要性の大きさも痛感しました。

現地で継続的支援を行い精神科医療保健福祉システム立ち上げのために活動している看護師は浦舟で、岡山からボランティアで来ていた看護師は福浦で働いていたという横浜市大と縁のある方々で「絆」を感じました。

震災からもうすぐ1年。NPO法人の設立、相馬広域こころのケアセンターが開所し少しずつ復興してきているように見えます。しかし、当時の現地の状況を思い出すと、道のりはまだまだ長いと感じます。現地で生活し、復興に向けて支援活動をしている人がいます。遠く離れていても身の回りでできることを継続し、支援する気持ちを持ち続けたいと思います。

センター病院 看護部

リエゾン精神看護専門看護師 蒲池あずさ



「心のケア チーム」第4班のみなさん

前列左が 筆者

後列左が 看護学科 精神看護学 塚田先生

写真で撮った「3月11日の日めくりカレンダー」を見ると、この被災されたご家族にとって、この日で時間や暮らし等が止まっていることを実感せざるをえませんでした。またこの失った時間や暮らし、こころをどう取り戻せるのだろうか強い思いにかられ、これからの復興への長い道のりに気が遠くなりました。私たちは、月日が経ても人々の暮らしや心を奪ったこの未曾有の災害ことは絶対に風化させてはならない、常に何ができるんだろうと問い続けなければならない...という思いを抱きました。

看護学科 精神看護学 内山繁樹



震災現場での一枚
3月11日で終わっているカレンダー

附属2病院から看護学専攻への講師派遣について

- 1) 感染看護学特講Ⅲ：感染管理学 (センター病院：看護部長 折津礼子)
- 2) 感染看護学特講Ⅱ：感染看護方法論 (センター病院：救命病棟 藤島麻記子)
- 3) 感染看護学演習：ICTラウンドと看護師の役割 (附属病院：感染認定看護師 武田理恵)
- 4) がん看護学特講Ⅱ：終末期がん患者と家族の抱える苦痛・苦悩への援助
継続がんがんケア (附属病院：がん看護専門看護師 畑千秋)
- 5) 母子看護学特講Ⅱ：小児医療におけるインフォームドコンセント
集中治療を受けるこどもとその家族への援助
周手術期にある子どもとその家族への援助 (附属病院：小児看護専門看護師 染谷奈々子)
- 6) 母子看護学特講Ⅲ：母子サポートシステム論 (センター病院：小児看護専門看護師 長田暁子)
- 7) 実践看護倫理：生命の始期および終期をめぐる倫理的問題 (センター病院：小児看護専門看護師 長田暁子)

学んでいます！

働きながら
学ぶ職員を紹介します！



横浜市立大学医学部医学研究科 母子看護学専攻

附属病院 NICU 田中涼子

現在、NICUに勤務しながら、大学院に通っています。学校の課題と業務の両方に追われ忙しい時もありますが、講義と実践とをタイムリーに結びつけることができるという仕事をしながら学ぶという良さがあります。一緒に学ぶ仲間からもたくさんの刺激を受け、看護だけでなく様々な物事に対する考え方の視野が広がったと感じています。

仕事をしながらでも学ぶことができるようにと授業の日程を配慮して下さる先生方と、講義に出られるようにと勤務調整をして下さる師長をはじめ部署のみんなの協力があって休まずに通うことができ、とても感謝しています。

医学研究科看護学専攻は、感染看護学、がん看護学、母性看護学、精神看護学、小児看護学、地域看護学、看護管理学（平成24年4月開講）があります。
あなたも学んでみませんか？

附属2病院から看護学科への講師派遣について

1) 成人看護学技術支援

センター病院： G I C U 藤真知子 救命病棟 郡司里美
 11-1 鎌田恵実 7-1 後藤良美
 13-2 田中久美子 手術室 杉崎陽子

2) 基礎看護学演習

附属病院： 6-1 笹野優子 6-2 鈴木衣美子 6-4 和田侑子
 7-2 原田邦子 7-4 山崎久美 8-1 柳瀬素美
 8-2 生駒奈津子 8-3 奥井優希 8-4 西野実和
 9-2 中禮 知子 9-3 山内加奈 9-1・4 千代浩子

3) 小児看護方法論：病院におけるプレパレーション

附属病院： 6-1 秋山典子 氏家圭子

附属病院

卒業生は今



看護学科3期生 附属病院

8-3・無菌室 榎本このみ

入職後1年が経とうとしている今、思い返せば辛いこともたくさんありましたが、それ以上に看護師になってよかったと感じています。新人看護師としてこの病棟に配属され、日々の業務に慣れる事や覚えなければならない事に追われる毎日で、辛い時もありました。そのような中で、今まで頑張ってきたのは患者さんの存在がとても大きかったと思っています。8-3病棟では入退院を繰り返し治療経過の長い患者さんが辛い闘病生活を送っています。そのような患者さんの頑張る姿や笑顔にいつも励まされ、ときには一緒に泣いたこともあります。患者さんの辛い思いを受け止めきれず悩む毎日です。でもそれが、私の看護師としてもっと成長したい、患者さんに還元していきたい、寄り添っていきたいという気持ちに繋がっているのだと思います。また、そのような私たち新人の気持ちをバックアップしてくださる病棟の教育体制や優しい先輩方にも感謝しています。



8-3病棟では病棟配属後、まずは技術習得が期間設けられています。技術習得と業務に慣れることが別々になることで、余裕をもってチームに入れたと思います。

また、先輩方はいつも優しく声をかけてくださり、不安なことはすぐに口に出せる環境を作ってくださいありがとうございます。分からないことを分からないままにせず、理由と根拠を持って患者さんに看護を提供できるよう、日々笑顔で頑張っています！

看護学科から附属2病院への講師派遣について

附属病院

- 看護倫理Ⅱ（基礎）
基礎看護学： 勝山 貴美子
- 看護倫理Ⅲ（事例検討）
基礎看護学： 勝山 貴美子
地域看護学： 臺 有桂
基礎看護学： 塚越 みどり
老年看護学： 服部 紀子
- 新人看護師研修ステップ
（フィジカルアセスメント）
基礎看護学： 塚越 みどり
- ケーススタディⅢ（リフレクション）
教育研修委員会導入講義
教育研修委員会フォロー講義
老年看護学： 青木 由美恵
- 教育研修委員会
（新人教育コンサルテーション）
基礎看護学： 野村 明美
基礎看護学： 平田 明美

センター病院

- 事例検討ビギナーコース
基礎看護学： 野村 明美
- 教育担当者研修
基礎看護学： 平田 明美
- 職業倫理
基礎看護学： 勝山 貴美子



勝山先生に 聞いてみました！

倫理は、法律とは違い
何をすべきか、という
道徳的で規範となるものです。

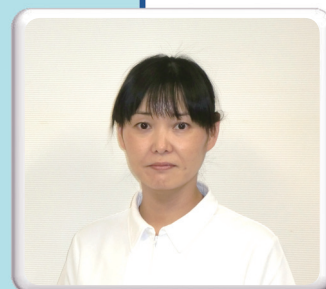
みなさんは看護職として、
専門職として、人間として、
どのような責務を持っていますか？
立ち止まり考えること、それがまず
倫理を知る第一歩となります。

「看護専門職としての責務 倫理と法律を受講して」

私の所属する救急救命センターでは、救命を要する重症患者が入院するため、例えば意識障害により意思決定ができない、家族に意思決定が委ねられるなど倫理的問題に直面することも多くあります。看護師は倫理的には問題はあるが、状況的に仕方がないと納得する一方、ジレンマに陥ることもあります。

今回勝山先生より、看護師としての法的責任を遂行する意味と看護職としての倫理的責任をどう捉え考えていくのかについて、保助看法や倫理綱領などを例にご講義いただきました。問題解決が困難な状況でも、倫理的責任の意味や原則を理解した上で看護に臨むことで、直面している倫理的問題の捉え方やその後の看護が意義あるものになると感じました。今後もチーム全体で倫理の学びを深め、看護実践へ活かしていきたいと思えます。

センター病院 救命ICU 副看護師長 岩間朋子





共同研究

テーマ	担当
術前筋力トレーニングが術後の歩行に与える影響 看護職者、医師、PTとの共同研究	成人看護学 附属病院 : 渡部節子 : 7-2病棟
HIV/AIDS患者のHAART導入後の療養過程における問題点と看護支援	成人看護学 附属病院 : 渡部節子 森みずえ : 9-1病棟
退院後早期の助産外来における育児支援に関する研究 ～2週間健診の評価～	母性看護学 附属病院 : 坂梨薫 勝川由美 : 6-2病棟
BFH認定施設A病院における母乳育児支援の評価 一産褥退院時および1か月健診時の母親への調査から一	母性看護学 センター病院 : 臼井雅美 鍋田美咲 : 9-2病棟

研究指導



<附属病院>

所属	テーマ	指導講師
7-4 山崎敦子 他2名	腹腔ドレーンに対するエビデンスに基づいた固定方法の導入と評価	基礎看護学 勝山貴美子
8-1 武重陽子 他1名	東日本大震災時、A病院で勤務していた一病棟看護師が収集した情報を基に判断・行動したプロセス	基礎看護学 勝山貴美子
9-1・4 松岡祐子 他3名	結核患者に対し入院時から治療終了まで継続的な支援を行うための病棟看護師と保健師の連携 一保健師が病棟看護師に求める情報一	地域看護学 田口理恵
ICU 大澤知子 他1名	ICUにおける小児循環器看護の現状と課題	基礎看護学 平田明美
手術室 寺西沙奈美 他1名	外回り業務における个人防护具着用順守への取組	成人看護学 渡部節子
6-4 神津和子 他1名	うつ病患者の退院支援にかかわる看護実践上の困難感	精神看護学 内山繁樹
6-2 中村政美 他5名	退院後早期の助産外来における育児支援に関する2週間の健診評価	母性看護学 坂梨薫

<センター病院>

所属	テーマ	指導講師
8-2 木澤由佳 他 3名	安全な身体抑制を推進していくために 一心臓血管センターにおける抑制に対する意識調査 一	成人看護学 五木田和枝



附属2病院の連携

2病院合同で行っている研修をご紹介します！

テーマ	内容
副師長研修	<ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理 <p>講師 基礎看護学 勝山貴美子</p>
新任師長研修	<ul style="list-style-type: none"> ・管理に必要な情報分析・目標立案 ・医療安全・感染 <p>講師</p> <p style="text-align: center;">センター病院：野水桂子 谷川一美 鈴木博美 尾形悦子 田中淳子 十文字美代子 三浦百合子 河原春代 川合淑子 阪口智恵</p> <p style="text-align: center;">附属病院：渡邊三紀子 高橋宏子 加福由美</p>

今後とも看護学科、附属2病院との連携にご協力お願いいたします！



News letter

-ザ・れんげい-

編集後記

横浜市立大学
附属2病院看護部と看護学科
との連携会議

ニュースレターも第2号発行となりました。内容も一段と濃厚になり、これを機に看護学科と病院の連携がますます盛んになっていくこと祈りつつ編集後記にいたします。私自身は編集にほとんど参加できず、メンバーの皆様へ頼りっぱなしの1年でしたが、完成にいたり嬉しい気分です。ありがとうございます。(杉浦)

今年度ニュースレターを担当し、あらためて沢山の連携を知りました。発行後は多くの方にニュースレターを読んでいただいて、連携して取り組んでいることを知ってもらいたいです。(徳永)

3つの組織が、教育・研究等、様々な活動を通して連携している事がとてもよくわかりました。ご協力ありがとうございました。見えないところでの連携も沢山ある事でしょう！その喜びやご苦労、工夫など記事をお寄せいただけましたらうれしいです。(五木田)

今月号は、震災の日、インターンシップを通じ、日頃の連携が見えるよう構成をしてみました、いかがだったでしょうか。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。日々の積み重ねが太い連携へとつながるよう、今後もご協力・ご支援をいただきますよう、お願いいたします。(島田)



編集委員： 附属病院 島田 朋子
センター病院 徳永 なおみ
看護学科 五木田 和枝
横浜市立大学 杉浦 由美子

皆さまからのご意見・ご感想・アイデア等ありましたら、編集委員までご連絡ください。